

照明灯

【参考資料】

きょうから十月。ドイツのミュンヘンはビール祭り「オクトーバーフェスト」でにぎわっている。十六日間の祭りに昨年は五百六十万人が集ったというからすごい▼「横浜の赤レンガ倉庫を舞台にオクトーバーフェストを」と夢見るのが株式会社横浜みなとみらい21前常務・松井雅彦さん。松井さんは都市基盤整備公団時代に港北ニュータウンの企業誘致を担当、ドイツ企業やドイツ学園を迎えてきた。知れば知るほどドイツと横浜の縁は深い▼日本でのビール造りはノルウェー系米国人コーブランドが山手で始め、ドイツ流の醸造技術だった。赤レンガ倉庫の設計者・妻木頼黄は独留学体験のドイツ派建築家、倉庫には耐震工法や防火床にその技術が生かされている▼ゆかりの場所でゆかりのビールをというわけで、十日から十三日まで第一回の横浜版オクトーバ「フェスト」が開かれる。ドイツ直輸入のテントの下で、本場のビール、ソーセージを味わい、音楽演奏を楽しむ▼祭りプロデューサーの松井さんの夢は膨らむ。二〇〇五年の日本におけるドイツ年の主要行事にし、二〇〇六年のサッカーW杯ドイツ大会では決勝戦開催都市として交流したい。「横浜の秋を代表する祭りに育てたい」。横浜・山手の外国人墓地には英・米に次いで約三百五十人のドイツ人が眠っている。横浜とドイツのつながりは深い。



●ベアージュズ商品に関するお問い合わせは

PHONE・FAX
0422-37-4621

MOBILE PHONE 090-3332-1176
E-mail: hsshindo@aol.com
〒184-0002 東京都小金井市境野町2-5-11

Authorized Dealer
進藤 久
Shindo Hisashi



湘南日独協会 2004 年度活動予定

どうぞ今からご予定下さい。

■ 8 月 28 日(土) 会員懇話会 18:00 ~ 20:00

会場 ホテル法華クラブ藤沢 2 F ローズルーム

卓話 川村力雄氏

(昭和 10 年生。元三菱美唄炭坑勤務)

戦後、ドイツのドルトムントやエルツの炭坑に日本から技術交流で派遣された方々がありました。川村力雄氏もその一人で、今に続く日独の交流について語っていただきます。

■ 9 月 25 日(土) 第 35 回例会

講演会 テーマ「おもちゃの話」(仮題)

講師 古橋昭子氏

会場 ホテル法華クラブ藤沢 2 F ロータスホール

■ 10 月 23 日(土) 会員懇話会

会場 未定

※会員中心にホイリゲ風のビアパーティを計画中です。どうぞお楽しみに！

■ 11 月 27 日(土) 第 36 回例会

講演会 テーマ「水圧の話」(仮題)

講師 宮川新平氏(㈱タカコ)

会場 ホテル法華クラブ藤沢 2 F ロータスホール

■ 12 月 ? 日 忘年パーティ

忘年パーティに関するご意見・ご要望がありましたら事務局へご連絡下さい。

2005 年は「日本に於けるドイツ年」です!!

湘南日独協会会報 (Der Wind)

VOL 6. NO. 4. 通巻 34. 発行 2004. 7. 31.

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局: 〒251-0055 藤沢市南藤沢 8-9 中丸ビル 2F

TEL0466-26-3028 / FAX0466-27-5091

湘南日独協会 会報

Der Wind

(風)

湘南日独協会 第 34 回例会

ドイツフェア



エーデルワイス カペレの皆さん

日時 7 月 31 日(土) 午後 6 時 30 分開演

会場 藤沢市民会館第一展示ホール

演奏 楽団「エーデルワイス カペレ」

企画・編曲 鈴木啓之

合唱団「アムゼル」

代表 狩野博美

指揮 梶井智子

ピアノ 成田 啓

主催 湘南日独協会

後援 江ノ電沿線新聞社

協賛 ドイツ観光局

新しいヨーロッパ 新しいドイツ

日時 5月22日(土) 午後1時30分～3時30分
講師 三輪晴啓氏 (駒沢女子大学教授・当協会会員)
会場 ホテル法華クラブ藤沢2Fロータスホール
.....

I 新しいヨーロッパ

04年5月、EU(ヨーロッパ連合)に10か国が新加盟した。ポーランド、ハンガリー、チェコ、スロバキア、スロベニア、エストニア、ラトビア、リトアニアの中東欧8か国と地中海のキプロス、マルタ両国で、EU加盟国は一挙に25か国に膨れ上がった。

その直前の4月には、NATO(北大西洋条約機構)に7か国が新たに加わった。やはり中東欧のスロバキア、スロベニア、ブルガリア、ルーマニア、エストニア、ラトビア、リトアニアの諸国であり、NATOは26か国体制となった。これによって、ロシアはNATO加盟国と直接国境を接することになり、脅威を感じている。

しかし、「ヨーロッパへの復帰」を果たした中東欧諸国の喜びは、ひとしおである。ヨーロッパは「ひとつ」に向けて、大きく前進した。人口:4億5000万 GDP:9兆6000億ユーロ。日本の2倍強。米国に迫る規模である。

問題点は新旧加盟国間の経済的格差が大きいこと。安い労働力を魅力として、生産拠点を東に移す西企業も多い。逆に、安い労働力が西になだれ込んで労働市場を乱すことへの不安も大きく、西はその「流入規制」を考えている。

こうした拡大EUの意志決定の迅速化ため、基本法

「憲法」の制訂作業が進められている。多数決原則の拡大などとともに、大統領職、外相職が新設される。「EUの歌」として、ベートーベンの「第9」の合唱曲「歓喜に寄せて」を採用することも検討されている。制訂交渉は難航しているが、6月中の合意を目指している。

こうしたなかで、対米関係がぎくしゃくしている。「イラク戦争」でフランス、ドイツは必ずしも米英に同調せず、アメリカは独仏などを「古いヨーロッパ」と呼び、アメリカを支持したチェコ、ポーランドなどを「新しいヨーロッパ」と持ち上げた(ラムスフェルド国防長官)。そんななかで、スペインの新政権が3月のテロ後の選挙で勝利し、フランスなどに同調。イラクからの兵力撤退を進めている。

EU「拡大」と並ぶ「深化」では、共通通貨「ユーロ」が導入され、01年以降、加盟12か国で一般に流通している。ドルと並ぶ世界の基軸通貨として評価されつつあるが、懸念もある。ドイツ、フランスなど主要国が「財政赤字をGDPの3%以内に収める」という規約を守っておらず、ユーロの安定性への不信感を生じさせている。だが、ともあれヨーロッパでは国境は事実上消滅し、ヒト、カネ、モノ、サービス、情報などの自由な流通が盛まった。域内の物流は日に見えて活発化し、経済は大きく活性化している。

II 新しいドイツ

歴史的な「ベルリンの壁」崩壊(89年11月9日)と、それに続いたドイツ統一(90年10月3日)から、早くも14～15年。

世紀の変わり目の2000年、ベルリンへの首都機能の移転がほぼ完了。官公庁や議会の移転も終わった。なかでも国会は旧帝国議会議事堂を改装。ガラスの天蓋を乗せて、議場を文字どおり「ガラス張り」にした。近くには堂々たる首相官邸も完成。街の様相も

一変した。ポツダム広場、フリードリヒ通りなどの旧繁華街が装いを新たに、高級ホテル、オフィスビル、有名ブティックなどが並び、戦前の賑わいを取り戻している。一角には「ソニー」のモダンな欧州本社ビルもそびえる。

政治の世界では、保守→革新の政権交代があった。社民党のシュレーダー氏が98年の総選挙で「統一宰相」コールから政権を奪い、緑の党との連立を成立させた。2002年総選挙での再選を経て、現在2期目。外交では、イラク戦争でのアメリカ不支持を貫いて、対米関係には亀裂を生じさせたが、国民からは評価されている。

EU推進での、フランスとの協調関係が特筆される。03年、独仏協力条約(エリゼ条約)締結40周年を機に、協力をいっそう緊密化している。独仏合同閣議の開催、外務省職員の相互派遣、EUサミットでの首脳の相互代弁など。軍事では合同旅団を編成。

だが、内政は、経済的な不況のなかで苦戦している。諸経済指標も芳しくない。失業率は9%余(とくに旧東独地域では18%)前後を推移。年金・医療改革なども進まず、構造改革案「アジェンダ2010」も「国民に負担を強い過ぎる」として不評。

地方選挙での相次ぐ敗北も加わって、シュレーダー氏は、その指導力不足を問われ、この2月、党首を辞任し、その座をミンテフェリンク下院院内総務に譲った。党務から離れて、政務に専念するためという。だが、世論調査ではSPD支持率が20%代に低迷。2年後の次期総選挙での苦戦が予想されている。

旧東独支援に当てられてきた巨額な資金も効果的に使われていないとの批判も強い。工場整備や道路建設などのインフラ整備に使われず、年金や失業手当などにまわされているという。経済格差の存続から、旧東西ドイツ市民間の「心の壁」も除去されていない。「40年の別離の克服」には同年月が必要ともいう。少なくとも「1世代(one generation) = 30年が必要」との評もある。